



◆ 学生のキャンパスライフを支援する福利厚生施設のあり方

優秀な学生を獲得して、世界レベルの教育・研究を持続するためには、キャンパスライフの充実は極めて重要な課題である。豊中キャンパスでは、大阪外国語大学との統合以来、学生数が増えて、食堂の混雑の問題が顕著に表れている。食堂等については、数量的充足だけでなく、学生が考え事や議論をすることができるゆとりある空間づくりという側面にも注力しなければならない。

一方で、施設整備にかかる経費は今後ますます競争的になり、従来手法による整備では実現がいつになるかわからない。ニーズの詳細調査を行ったうえで、民間事業者の誘致など、整備手法に重点をおいた検討が望まれる。

◆ 建築キャパシティの限界と将来更新検討（建物、オープンスペース、緑地等のバランスなど）

基礎工学研究科、医学研究科・医学部附属病院周辺や工学研究科・微生物病研究所周辺など、キャンパスの一部に、すでに相当高密度に建物が建てられている状況があり、部分的に、建築可能な空間を限界まで使い切っている。各キャンパスとも、厳しい高さ制限（航空法によるものほか）がかけられており、高層化にも限度がある。

建物を建設するにあたって、従来は、駐車場や駐輪場の需要増や緑地とのバランスが十分検討されずに計画される場合があった。

快適性や景観の側面のみならず、災害時の対応を考えたとき、避難や一時退避のためには、建物周辺には収容人員にみあった十分な空地が必要であるが、今現在はそのような検討が十分されているとはいえない。

一方で、キャンパス内には低層で土地利用効率が悪く、老朽化した建物も数多く存在する。エネルギー利用効率の面からも、建築物を適切に集約高層化して、土地利用効率を高めることは重要な課題となる。

これらの検討は、キャンパスの建物の建築キャパシティを見極めることにもつながり、新たな土地取得等も含めた長期的ビジョンでの将来更新検討を行うためにも、極めて重要な検討となる。

◆ 防災・防犯、省エネ・低炭素化の取り組み強化（低炭素推進計画や防災計画等との関係性）

サステナビリティは、大学キャンパスにとって、ますます重要な課題となってきている。低炭素推進計画との整合をはかりながら、大学全体としてのめざすべき取組を明確化し、キャンパス計画に反映していく必要があると考えられる。

平成7年(1995)年の阪神・淡路大震災、そして平成23(2011)年の東日本大震災では、学校が避難場所や支援基地として極めて重要な役割を担った。広域避難施設としての指定を受けているのは、豊中キャンパスの体育館とグラウンドだけであるが、万一の際にはキャンパスの多くの部分が、これに準じる役割を担うことも想定される。キャンパス全体の防災計画や緊急時の対応体制とも合わせて、検討されることが必要である。

◆ 広報やユーザー参加による点検評価（アンケート等）の強化や、地域との連携

構成員が自身の所属するキャンパス空間に関心をもち、愛着を深めることができるためには、キャンパス計画において学生や教職員がかかわりをもつことも非常に重要である。これまでは、キャンパス計画ご意見箱、アンケートやヒアリングなどの限定的な場面しかなかったが、今後は、定期的なアンケート調査はもちろん、清掃に関するイベント「キャンパス・クリーンデイ」のようなものや、整備に関するワークショップ等、より幅広く奥行きあるかたちでの企画や参加が期待される。関心をもって参加してもらうためには、日ごろからのキャンパスマネジメントの広報もまた、大変重要である。

キャンパスは教育・研究の場であると同時に、建物が密集している大都市近郊において、貴重なオープンスペースを比較的多く内包した豊かな空間をもっている。昔のような塀で閉ざされた大学キャンパスは、地域にとってはある種の迷惑施設の様であったが、近年の大学キャンパスは教育研究面での社会への貢献に限らず、地域に潤いを与える空間としての役割や、周辺に居住する学生たちとの共生など、様々な側面において、地域との連携が期待されている。

◆ 豊中キャンパスにおける阪急石橋駅～阪大坂下までの通学ラッシュや自転車と駐輪の取り扱い

大阪外国語大学との統合後、豊中キャンパスに学生が増えたことによって、これらは大きな問題となってきている。警察や行政、地元と共同して対症的な対策をとりながらも、交通マネジメント（例えば、大阪モノレール等の公共交通事業者への働きかけと提携によって、通学ルートをコントロールすることも考えられる）や空間マネジメントによる積極的な対策も、長期的には考えていく必要がある。

集約駐輪場や駐車場の計画などを、キャンパスや周辺地域の空間キャパシティを踏まえた検討を行い、これらの在り方に明確な方向性を与え、キャンパス内だけでなく周辺地域を含めて、歩行者優先のより安全な空間としていかなければならない。

